

天皇陛下御在位三十年奉祝式を開催



陛下が「象徴」としての天皇のあり方を常に求め続けてこられたことを語られる清水学長

一日の丸仰ぎ、聖寿万歳

厳肅な雰囲気の中、十一時十分に式典は始まった。国歌斉唱の後、佐古一洵理事長による式辞が述べられた。その中で佐古

二月一日、本学記念講堂において「天皇陛下御在位三十年奉祝式」が開催され、五四〇名以上の学生、教職員が出席した。

陛下のお言葉で「平成」を振り返る

続いて清水学長による記念講話が行われた。演題は「平成の御代と天皇のお言葉」。陛下のお言葉を通して、今上陛下のお姿と平成の時代を改めて見直すという内容だ。

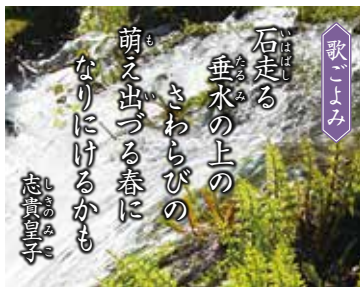
まずは、ご譲位の意思を間接的に示されて全国民に大きな驚きを与えた平成二十八年のビデオメッセージのお言葉を紹介。陛下がご高齢による体力の限界を感じられ、象徴としてのお務

「象徴天皇」としてのあり方を追求

さらに、東日本大震災で初めてビデオメッセージを使われ、陛下のお言葉を全国民に肉声で伝えられたのは、終戦の玉音放

皇學館 学園報

第78号
平成31年2月



■注目記事

- アカデミック** 2面
中高教員輩出プロジェクト「倉志会」が発足
澤友美さん(教院1)が「Excellent Poster Presentation」を受賞
- グローバル** 3面
「グローバル人材育成プログラム」を通して(教務部部長 小林誠治)
- カルチャー&スポーツ** 4面
大会新で連覇! 東海学生駅伝大会
- 特別企画** 5面
内定者ボイス
- 高中トピックス** 6面
ピンクシャツデー運動でいじめのない社会へ
- 皇學館高校・中学校** 7面
卒業生随想
- アクティブスチューデント** 8面
辻井麻伽さんが心理学検定特1級、杉浦早紀さん、深川美月さんが1級に合格!

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学
大学院 文学部 教育学部
専攻科 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)



復興への祈りと激励を繰り返された尊いお姿を振り返った。また、「各地で頻発した自然災害の度に、慈愛深いお言葉によつて救われた人々は数えきれず、被災者に寄り添うことで『象徴』としての新たな天皇の姿をお示しになられた」と語った。

「陛下は、皇室と国民の理想的な関係について『国民と苦楽を共にする』と言われているが、その根底には、ひたすら国安かれ、民安かれと祈られる祭祀伝統(天皇の祈り)がある。象徴天皇としてのあり方を追求し続けられた結果が国民に寄り添うさまざまなご活動に繋がっておられる」と語り、最後は「新しい時代を迎えるにあたり、国民一人ひとりが自らのあり方を顧み、社会のために何をなし得るかを真剣に考えて、時代を切り開いていかなければいけない」と締め括った。

国史学科四年の浦田康平さんは「これまでの学びは昔の歴史に目を向けることが多く、平成という時代を意識してこなかったのだ、今に目を向ける良い機会になった」と感想を述べた。

本学では新天皇陛下御即位に伴い、「即位礼と大嘗祭の歴史と文学」を年間テーマに月例文化講座を開くほか、佐川記念神道博物館にて特別展を企画するなど多彩な催しを開催する予定だ。

公立学校教員の働き方改革について、残業上限を原則「月四十五時間、年三百六十時間」以内と定めた文部科学省指針の方策を中央教育審議会がまとめた▼教師の業務、学校の業務、業務外に三区分し、業務の明確化を図る▼従来から大きな負担感があるとされている部活動は業務に位置付けるが、活動時間の短縮や学外指導員への委託を活用して負担を軽減するという▼本学でも以前からいわゆる学校ボランティアの一環として部活動の支援に取組んでいる教員志望の学生諸君も多い。今後、その役割や期待がますます大きくなることになる▼学校ボランティアは、教育現場の実践的活動にもつながるし、生徒達とのコミュニケーションを図る能力も身につく。何より、地域の課題解決に結びつく▼ただ、手放して学校教員が良し、学生が良し、地域が良しの三方良しというわけにはいかない▼必要に応じた指導員資格の取得、郊外にある学校へ通う手段や経費万が一事故が起ったときへの備え、学業との両立など乗り越えなければならぬハードルも多い。皆で知恵を出し合う改革が求められている。

故田中 卓元学長が 「従四位」叙位の栄に



平成30年11月24日に逝去された田中卓元学長が「従四位」叙位の栄に浴された。叙位は国家又は公共に対し功労のあった方に、その功労に鑑み授与されるもので、平成31年 1 月22 日、大学より、ご遺族に位記の伝達が行われた。

「近代文学から四日市を考える」 第 6 回 三重大学・皇學館大学 合同シンポジウム開催



和田准教授は「文学と四日市公害」、岡野准教授は「まちの文学にふれる」をテーマに講演

大学の研究成果を地域社会へ還元しようと、三重大学と本学が合同で開催しているシンポジウム。第6回は「近代文学から四日市を考える」をテーマに「じばさん三重」(四日市市)で昨年12月16日に行われた。

三重大学教育学部の和田崇准教授は四日市公害を描いた石垣りん氏や澤井余志郎氏らの作品を紹介しながら、文学を実社会からかけ離れたものと考えずに、自分の問題としてとらえる想像力の必要性を訴えた。本学文学部岡野裕行准教授は自分の身の回りの今の姿を記録し、自らの手で残していくことも文学と指摘。その後のパネルディスカッションでは四日市と文学のつながりについて活発な議論が交わされ、聴衆は熱心に耳を傾けていた。

史料を丹念に精査し研究発表 神道学会研究発表会



平成30年11月29日、本学神道学会研究発表会が開催された。発表者は平成29年度本学神道学科卒業生で、昨年度神道学科で卒業論文最優秀の成績を修めた江崎義訓氏、本学大学院文学研究科博士前期課程神道学専攻・西山宜延氏、同・佐伯篤史氏の3名。

【「神風」観念の歴史の変遷 ―古代から近世まで―】と題した江崎氏の発表は「伊勢」の枕詞として限定的な言葉であった「神風」が壬申の乱、律令制の崩壊、蒙古襲来といった歴史的事象を契機に用例が変化していく様を史料を丹念に精査し突き止めた。

【近代地域社会における神葬祭の受容と宗教変化―奈良県十津川郷竹筒村にみる僧侶の還俗と神葬祭化―】をテーマにした西山氏は神仏分離により53の寺院が全て廃寺になり神葬祭が普及していく状況について、村に残る史料を丁寧に読み解き、いち村落の事例を明らかにしている。

【神社鎮座地情報と神社の社会的役割に関する研究―「三重県神社誌」を活用したデータベース作成・分析作業を中心に―】に取り組んだ佐伯氏は自然災害等を念頭に神社の持つ多面的役割を模索した。

いずれも非常に纏まった内容であり、神道学科を中心に参加した学生にとって多くの刺激を受ける研究発表会であった。

Academic アカデミック



満席となった会場は熱気に包まれた



科目教員である中高教員をめざすにあたり、9名の本学教員がスーパーバイザーとして学生を支援

本学、ことに文学部の創立以来の大きな目的である中学、高校の教育界への人材輩出を更に一層飛躍させるため、中高教員をめざす学生を強力にサポートする「中高教員輩出プロジェクト」がスタートした。その核となる中高教員をめざす学生を支える会「倉志会」が発足した。

昨年十一月十四日に開催された決起会の冒頭で田浦雅徳学長は「倉志会」が発足した。補佐は「倉志会」発足の経緯に触れ、「複数といわず、数十人の中高教員を輩出できる活動に」と意気込みを述べた。続いて清水潔学長が登壇。「教育界へ優れた人材を輩出してきた伝統を引き継ぎ、志高く挑戦してほしい」と熱く語った。岡野友彦文学部長は「文学部は国語・社会・英語という文系三教科を究める環境にある」と説き、プロジェクト

中高教員輩出プロジェクト

倉志会が発足

倉志会の内容

- 教職に関するアドバイスや相談
➡スーパーバイザー等が中心となって随時対応
- 教員採用試験(専門分野)対策の強化
➡対面式による講座の実施
- 館友中高教員からの指導
➡受験対策指導、模擬授業等
- 学生同士の情報交換、勉強会
➡毎週木曜実施中

倉志会サポート教員

リーダー ● 田浦学長補佐

スーパーバイザー ●

中松教授 齋藤教授 多田准教授
豊住教授(英語) 小堀助教(国語)
遠藤慶教授(日本史)
堀内准教授(世界史) 外山教授(地理)
中條准教授(教育学部担当)

※中高対象の教職アドバイザーを配置予定

のきつかけとなった「将来構想委員会」の座長を務めた新田均現代日本社会学部部長は「皇學館独自の見方・考え方に基づいた国語や歴史を伝え広めることができたなら、本学の発展に限らず日本にとっても価値あること志を立て、この国の次の世代をしつかり教育していつてほしい」と思いを託した。

学生からの期待も高く、中高教員をめざして本学に入学したと話す井口紗玖良さん(史3)は「教科ごとに教授陣がスーパーバイザーとしてサポートしてくれるのは心強い」と喜び、古布駿輔さん(史3)は「こうしたプロジェクトを作ることで文学部から中高教員をめざす人、合格する人が増えていくといい」と話した。「倉志会」学生代表の寺本優太さん(史4・五面内定者ボイス参照)は「難関であるため志半ばであきらめる学生も多い。倉志会の仲間で切磋琢磨し、夢を叶えて」とエールを送った。



決起会后、さっそく登録作業を行う学生。12月末時点で100名が登録(神道1、国文23、国史44、コミュ19、教育13)

澤 友美さん(院教1)が 「Excellent Poster Presentation」を受賞

アジア生物学教育協議会(AABE) 第27回 隔年会議



賞状を授与され喜びの表情を浮かべる澤さん

生物学教育の向上と発展を目的に活動し、権威ある学術雑誌として知られる「The Asian Journal of Biology Education」を発刊するアジア生物学教育協議会(AABE)。その第二十七回隔年会議がタイ・バンコクで昨年十二月一日、二日に開催され、澤友美さん(院教1)が発表した「アワヨトウ幼虫の血球を用いた食作用の観察・実験」が最も優れたポスターに授与される「Excellent Poster Presentation」を受賞した。

現在、日本の高校の生物基礎では免疫に関する内容が深化し、ある教科書にはバクテリアの観察・実験が最も優れたポスターに授与される「Excellent Poster Presentation」を受賞した。中松先生をはじめゼミメンバーの協力あつての受賞」と話す澤さん。「高校の生徒から教科書のための授業よりわかりやすいとの声をたくさんもらった。他の実験についても取り組みやすく、負担の少ない教材や手法を開発していきたい」と抱負を語った。澤さんを指導した中松豊教育学科教授は「実感を伴った理解が得られる探究活動の重要性は世界共通の認識。今回発表した実験は国内でも反響が大きく、現場の先生から多くの問合せが寄せられた」と研究室発の教育プログラムが国内外で高く評価されたことに喜びを語った。

目のフタホシコオロギなどの血球を用いた食作用の観察・実験が記載されている。しかし、バクテリアは血球の採取が難しく実験から観察まで二十四時間以上要する。そこで、澤さんはバクテリアに比べ食作用を示す血球が多く、より扱いやすいチョウ目のアワヨトウの幼虫を実験教材に採用。さらに、注射器より安全かつ一単位時間(五十分)内で観察・実験できる in vitro 方法を開発した。

鈴木健一伊勢市長が講演 平成30年度 伊勢志摩共生学

1月10日、鈴木健一伊勢市長が「伊勢志摩共生学～これからの伊勢～」と題し講演を行った。伊勢市の歩みや将来構想について語った鈴木市長。まちづくりの方向性に関する「市民意識調査」では「安全・安心」「神宮のまち」のほか、10代からは「歴史・伝統文化を保全、活用した歴史・文化のまち」を選ぶ声が多かったとして、郷土愛の醸成や伊勢らしい文化の振興に取り組んでいきたいと話した。また、シティプロモーション推進策の一つとして2020年に「伊勢志摩ナンバー」の導入を予定していることや本学との包括連携協定についても触れ、地域活性や人材育成に今後も注力していきたいと意気込みを語った。



元体操のお兄さん 佐藤弘道氏らが来学 教育学会講演会開催

「おかあさんといっしょ」元体操のお兄さんの佐藤弘道氏とあそびうた作家の谷口國博氏を講師に迎えた教育学会講演会が昨年12月20日、本学の総合体育館で開催された。集まった300名の学生は両氏の軽快なトークとともに子どもと一緒に楽しめる手あそびや体操、絵本の読み聞かせなどを学び、最後はお二人の代表曲「ウキウキパレード」を全員で踊るなど、大盛況のフィナーレとなった。参加した学生は「とても楽しく体を動かし、1時間半があつという間に過ぎた」「人を惹きつけるダンスや歌、トークなど様々な点で勉強になった」「全員が一体感を感じ関係性を深められるもの、体のづくり、幼児の発達に合わせた動きなどたくさんのかことを学べた」「将来保育士になったとき、自分に子どもができたときはこの大人と子どもが触れ合う遊びと一緒にやってみたい」と笑顔で語っていた。



平成30年度 おかげキャンパス プロジェクト報告

勢和の空の下で本を持ち寄り語り合う
BOOKピクニックを開催プロジェクト
教員／岡野裕行 実施期間／H30.7.1～31.1.31

本学ふみくら倶楽部の学生たちが、「本と人」「本と地域」「人と人」がつながるきっかけづくりを目的に、本のブースが並ぶイベント「BOOKピクニック」を平成30年9月30日、ふれあいの森「勢山荘」(多気町丹生)にて実施した。少女まんがが館 TAKI 1735・勢和図書館と連携し、三重県内で本に関わっている方々に出店・展示をお願いしたところ、図書館・出版社・本屋・古本屋・ブックカフェが集まった。学生が企画・運営に関わる業界横断的な本のイベントは、全国的にも珍しいと注目された。関係者・来場者からも次回の開催を要望する声が多かったため、次年度も継続したい。

図書館を楽しく活用する方法を
みんなで見つけ合って育てるプロジェクト
教員／岡野裕行 実施期間／H30.8.1～31.1.31

ふみくら倶楽部の学生たちが三重県教育委員会・菟野町図書館と連携し、本を魅力的に紹介する方法をみんなで考え・実践するワークショップを平成30年11月25日、菟野町図書館で開催した。読書活動に興味を持つ小中学生(子ども司書)や読書ボランティアと一緒に、午前中はピブリオバトルと図書館活用のためのアイデアをみんなで出し合うワークショップを行い、午後は各自が持ち寄ったオススメの本を紹介する舞台づくりに取り組んだ。



三重の魅力を再発見する機会となった大学生サミット

二人とも「普段会う機会のない留学生と交流したことで視野が広がった」「討論会での時間の使い方や争点の洗い出しが勉強になった」「行動力が大切で、学生の立場でできることはたくさんある」と、参加自体が貴重な経験になったと振り返った。

大学生版サミット「UNICOM 2018 第3回大学生国際会議 in 三重」が昨年十一月二十三日から二十五日にかけて紀北町を主会場に開催され、本学の学生二十名を含む県内の学生と留学生約六十名が参加。「世界遺産は環境保全に繋がるか」「林業の振興のために私たちに何ができるか」等、グローバルな視点から地域課題について考えた。

多様な意見、価値観に 刺激を受ける

UNICOM 2018 第3回大学生国際会議 in 三重

高井克明さん(現3)は「観光客のマナー違反が世界遺産の環境悪化につながるという見解や多くのグループが林業の活性化にSNS等での発信を提案する中、『発信後どうするか、どうするかを考えるべき』との意見が出て考えさせられた」と活気に満ちた討論に刺激を受けたようだ。岩野和磨さん(文3)は「出身国やバックグラウンドによって価値観が違う。僕が当たり前に思っている三重の文化や生活が外国人に受けることがわかった。『ありのままの三重』を提供できる環境を整えれば、魅力的な観光資源になるのでは」と感想を話した。

さらに二月二十八日には三年生最後の総まとめとして、留学生を招いて伊勢神宮やおかげ横丁を英語で案内する「英語で伊勢ガイドツアー」の実施を予定。昨年度からスタートした新たなプログラムだが、二年次に実施した「神宮研究」を生かしながら日本や伊勢の文化を発信するとともに、他国の文化や慣習を学ぶことで異なる考え方や価値観への理解も深める。海外修学旅行で異文化を肌で感じてきた経験を生かし、自国文化発信と異文化理解の良き実践の場となることだろう。



学校交流での記念写真(マレーシア・REAL School)

初めての海外修学旅行となった三年生。四月から、現地で発表する南中ソラーンの練習を開始し、二学期からは英語の学習や出国・入国での注意事項など旅行に向けての本格的な事前学習を開始した。生徒は各グ

中 学 校

「グローバル人材育成プログラム」を通して

教務部部长 小林 誠治

国際化がますます進展するグローバル社会において、様々な国の人々と関わり合い、自己を発信できる『世界で活躍できるグローバル人材の育成』を目指し、本校では「英語力」「コミュニケーション能力」「異文化理解」をキーワードに多彩なプログラムを展開している。

身につけてきた生徒たち。今後もこれまでに培った英語力やコミュニケーション力を礎に、国際的な視野や豊かな感性をさらに磨いてもらいたい。

シンガポール・マレーシア修学旅行報告

第三学年主任 吉田 康人



シンガポール大学生との市内散策

異文化理解は実行が一番

3年B組 竹村 将一



プライ村でのホームビジット体験

マレーシアのプライ村を訪問し、文化の違いに驚いた。かなり近代化は進んでいたものの、今から住めと言われたら厳しく、やはり日本は素晴らしいと実感した。また、出かける前は「個人的に行けたら」と自己中心的な思いだったが、現地で強烈に感じたのがみんなと一緒にいる楽しさだった。「異文化理解」は実行が一番。それも仲間がいてこ

学んだことをこれから生かす

3年A組 森 真奈香

市内観光では案内役のシンガポール大学の学生と一緒にランチを食べ、色々なお店を回ったり、お土産を聞いたりととても楽しかった。旅行当日、シンガポールでは大学生との市内散策や日本企業の見学を実施した。散策ではバスや電車を利用して観光や買い物や英語で満喫。企業見学では会社の説明や施設見学を通して、価値観の異なる国の人々が共に働くためにはコミュニケーション能力がいかに大切かを学んだ。また、国境を渡りマレーシアでは学校交流とホームビジット体験を実施。現地中学生との交流では同年代の語学力に驚かされ、プライ村では食事やゲームなどマレーシアの文化に触れることができた。最後にナイトクルーズでシンガポールの夜景に感動し、四泊五日の行程を終了した。事後アンケートでは全て

の生徒がとても充実した旅行であったと回答した。一方で、自身の語学力や主体性に課題があると感じ、今後の学校生活を見直したいという意見も多くあった。生徒にとってこれから国際社会の一員として働くために必要な力を発見、再確認できた旅行ともなった。

東海学生駅伝初優勝ランナー 矢野徹郎氏の姪御さんが来学

昭和15年、本学は第4回伊勢、熱田両神宮参拝東海学生駅伝競走で初優勝している。その時の最終走者・矢野徹郎氏（神宮皇學館本科52期）の姪で、現在愛媛県在住の森賀（旧姓矢野）美子さんが10月27日に来学。叔父の思い出話に花を咲かせた。



矢野徹郎氏

徹郎氏は卒業後海軍航空兵となり、満24歳であった昭和19年12月7日、神風特別攻撃隊第五櫻井隊長としてフィリピンで戦死されている。森賀さんは偶然新聞で本学駅伝競走部の活躍を知り、駅伝への思いが綴られた徹郎氏の手記をお持ちくださった。当時、土浦航空隊に入隊していた徹郎氏は「短艇訓練は相当苦しかった。苦しいときは、いつも驛傳競走のことが浮かんでくる」「龍谷太郎眼やみて陸軍病院に入院。駅伝の友、精華寮同室の友よ、兄の今迄がんばって居た苦闘が目に見える。俺と兄とは、あのグラウンドが結んだ。あの御幸道が結んだ」「大祭も近づく頃、肌寒い風の吹く頃は、いつも驛傳のことを思ひます」等の言葉を残している。また、後輩が駅伝を走らず、グラウンドがなくなると聞いて、「苦しさを 耐へて走らん者なきと 云ひしきけば さびしきろかも」、「グラウンドの 命と共に消え行くか 驛傳遂に 走るものなし」と無念の胸中を吐露しているものもある。

森賀さんは約80年の時を経て復活した駅伝について「叔父も喜んでいと思う。空から頑張れと応援しているのでは」と笑顔で話した。

「意見を取り入れた運営に」 第58期 学友会が発足

私は56期で庶務委員、57期で会計委員として学友会を支えてきました。そして、次はその経験を活かし、総務委員長として活動をしていきたいと考えています。



学友会が行う行事には新入生歓迎会や倉田山清掃等があります。行事を円滑に行うためにはその元となる総務委員会を丁寧に行う必要があります。そのため資料作成や説明内容等を入念に打ち合わせ、充実した会になるよう努力していきます。また、私は皆さんのご意見・ご要望を取り入れた運営を行っていきたくと考えています。具体的には、総務委員会やLINE等で皆様からご意見・ご要望を募り、それらをしっかりと吟味したうえで対応していきたいと考えています。

多くの学生の皆さんが、楽しく学生生活を過ごせるよう、部・同好会や各クラス代表の方々と連携を図り、そして58期学友会総務部の仲間たちと協力して、積極的に活動を行います。よろしく願い致します。

総務委員長 坂井淳一郎（現日2年）

総務委員長	坂 井 淳一郎（現日2年）
総務副委員長	田 中 千 晴（神道2年）
会 計 委 員	所 谷 浩 史（神道1年）
庶 務 委 員	朝 倉 正 樹（神道2年）
	尾 形 和 奏（神道2年）
	日比野 宗 彌（神道1年）
	堀 江 翔 太（神道1年）

Culture & Sports カルチャー＆スポーツ



胸上げされる上村一真キャプテン

第80回 東海学生駅伝対校選手権 大会結果			
順位	大学名	記 録	
優勝	皇 學 館 大 学 A	3 時間17分15秒（大会新）	
2 位	名 古 屋 大 学 A	3 時間18分25秒	
3 位	愛 知 工 業 大 学	3 時間21分02秒	
	皇 學 館 大 学 B	3 時間23分58秒	
4 位	岐 阜 経 済 大 学	3 時間25分22秒	
5 位	至 学 館 大 学	3 時間27分11秒	
6 位	愛 知 教 育 大 学	3 時間27分55秒	
7 位	東 海 学 園 大 学	3 時間28分52秒	
8 位	中 京 大 学	3 時間29分37秒	

各区間の記録（皇學館大学A）			
区間・距離	氏 名(学科・学年)	記 録	区間順位
1 区 8.5km	山 下 大 地(教4)	25分55秒	2 位
2 区 10.6km	川 瀬 翔 矢(現2)	30分59秒	区間賞・新
3 区 8.1km	上 村 直 也(教2)	24分45秒	区間賞
4 区 8.3km	平 山 寛 人(教2)	26分57秒	3 位
5 区 10.3km	平 野 恵 大(現3)	33分26秒	3 位
6 区 5.4km	金 谷 智 頭(教3)	17分14秒	区間賞
7 区 12.3km	上 村 一 真(教4)	37分59秒	区間賞

「自分たちの走りに自信をもって、連覇で出雲を勝ちとろう！」と選手を送り出した日比勝俊監督は「一部、アクシデントやミスもあったが、選手らがしっかりと自分の走りをしてくれたので、目標達成できました」と大会を振り返った。今春卒業するキャプテンの上村一真選手は「途中で苦しくて心が折れそうになったけれど、大会新での優勝と出雲駅伝への出場切符という置き土産を残せてよかった」と笑顔を見せた。また今大会ではオープン参加で出場したBチームも健闘。三時間二三分五八秒と順位がつけば四位（オープンチームの過去最高位）となる好タイムを叩き出し、選手層の厚さを示した。なお、この日は第十二回東海学生女子駅伝対校選手権大会（五区間／二六・六キロ）が開催され、本学女子陸上部は昨年のタイムを二十六秒縮める一時間三九分一九秒を記録。十三校中、七位となった。



左からギル氏、佐藤部長、カンタン監督

今回の合宿は佐藤武尊部長の働きかけで実現。佐藤部長はカナダ柔道連盟のCEOニコラス・ギル氏と現役時代から親交が深い。そのつながりを生かし、本学を東京五輪・パラリンピック、その翌年に東京で行われる世界選手権の合宿地として提案をするために今回の合宿を呼び掛けた。「カナダ代表の招致を目指すのはもちろん、選手たちとの練習メニューなど触れるもの全てが新鮮。伊勢の静かで落ちついた環境は練習にも適している」と感想を語った。主将の現代日本社会学部四年・大山諒真さんは「外国の選手は固定観念に捉われず、柔軟で自由な柔道をしていて、勉強になった」と語り、有力選手たちとの練習から部員たちはそれぞれに刺激を受けていた。

大会新で連覇！ 東海学生駅伝大会

二区から首位譲らず 四名が区間賞

一昨年、七十七年ぶりに優勝した快挙に次ぐ偉業だ。本学駅伝競走部Aチームが昨年十二月九日に行われた第八十回東海学生駅伝においてこれまでの大会記録を五十秒更新。三時間一七分一五秒の大会新

第八十回東海学生駅伝対校選手権大会が昨年十二月九日、愛知県知多半島で行われ、本学駅伝競走部Aチームが三時間一七分一五秒の大会新記録で連覇を果たした。二度目となる出雲駅伝への出場も確定。実力を示した。

記録で連覇した。

コースは知多半島沿岸を時計回りに巡る七区間六三・五キロ。三重、愛知、岐阜、静岡県から十九校が参加したレースは序盤から本学が存在感を見せつけた。一区・山下大地選手（教4）が二位の好位置でたすきをつなぐと、二区・川瀬翔矢選手（現2）は十キロまでに名古屋大Aチームをとらえ、区間新記録の走りで見事に前半から積極的に飛ばし、

位に。さらに三区・上村直也選手（教2）が区間賞にして歴代二位となる二四分四五秒をマークし、独走態勢を築いた。このまま安泰かと思われたが、

Bチームも健闘 選手層の厚さ示す

「自分たちの走りに自信をもって、連覇で出雲を勝ちとろう！」と選手を送り出した日比勝俊監督は「一部、アクシデントやミスもあったが、選手らがしっかりと自分の走りをしてくれたので、目標達成できました」と大会を振り返った。今春卒業するキャプテンの上村一真選手は「途中で苦しくて心が折れそうになったけれど、大会新での優勝と出雲駅伝への出場切符という置き土産を残せてよかった」と笑顔を見せた。また今大会ではオープン参加で出場したBチームも健闘。三時間二三分五八秒と順位がつけば四位（オープンチームの過去最高位）となる好タイムを叩き出し、選手層の厚さを示した。なお、この日は第十二回東海学生女子駅伝対校選手権大会（五区間／二六・六キロ）が開催され、本学女子陸上部は昨年のタイムを二十六秒縮める一時間三九分一九秒を記録。十三校中、七位となった。

カナダ代表ジュニアチームと 合同合宿

柔道部



打ち込みの練習風景。部員たちは海外の選手の強さに触れ、自身も意識を高めた

昨年十一月二十六日から三日間、カナダのナショナルジュニアチームが本学を訪れ、本学柔道部と合同合宿を行った。来日したのは、十五歳〜二十一歳の選手十五名とコーチ二名。外国人選手が本学の練習に参加することはあるが、国の代表チームが訪れるのは初めてだ。柔道場で行われた合同練習にはカナダの選手と柔道部員約五十名が参加し、本学が普段行っている練習メニューに取り組んだ。初日は打ち込み（投げ技の練習）や乱取り（技をかけあう自由稽古）などで約二時間汗を流した。今回の合宿は佐藤武尊部長の働きかけで実現。佐藤部長はカナダ柔道連盟のCEOニコラス・ギル氏と現役時代から親交が深い。そのつながりを生かし、本学を東京五輪・パラリンピック、その翌年に東京で行われる世界選手権の合宿地として提案をするために今回の合宿を呼び掛けた。「カナダ代表の招致を目指すのはもちろん、選手たちとの練習メニューなど触れるもの全てが新鮮。伊勢の静かで落ちついた環境は練習にも適している」と感想を語った。主将の現代日本社会学部四年・大山諒真さんは「外国の選手は固定観念に捉われず、柔軟で自由な柔道をしていて、勉強になった」と語り、有力選手たちとの練習から部員たちはそれぞれに刺激を受けていた。

内定者ボイス

早めの準備が力ギともいえる就職活動。今回は、一般企業、公務員、教職の内定を獲得した先輩たちの声を紹介します。

① 志望理由 ② 成功の秘訣・工夫 ③ 後輩へのアドバイス

一般企業編

渥美 里夏(国文)

【内定先】株式会社朝日
オリコ名古屋



① 広告業界に興味があったこととアルバイトでの接客経験を踏まえ、営業職が向いていると思った。② 相談窓口があったことで非常に助かった。不安や悩みを解消できるので、自信をもって就活に臨めた。③ 早めに視野を広げること。面接では常に相手と会話するように心掛けた。また、何でもいいので誇れるものを一つ持つてくたさい。

村田 正樹(国史)

【内定先】株式会社ローソン



① 大学一年からローソンでアルバイトをしており、お客様との距離の近さや地域密着の運営方針に興味を持った。② 自己分析に悩んだが、就職支援室の方と面談を重ねたり友人に相談して克服した。③ 早くから様々な業種のインターシップに参加してやりたいことを明確にし、わからない点を質問したり、会社の雰囲気や仕事内容が自分に合うか把握しよう。

岡澤 しおん(コミュ)

【内定先】日本旅行



① 飲食店でのアルバイトを通して接客の楽しさ・やりがいを感じ、大好きな旅行を通して人を喜ばせる仕事がしたいと思った。② 就職支援室の方との個人面談や適切な助言が非常に役に立った。③ 面接など目上の方と会話する機会が多いので、日頃から年上の方と積極的にコミュニケーションをとる、物怖じせず会話できる力を鍛えようとよい気分転換も大事。

早川 依里(教育)

【内定先】百五銀行



① 企業の出合いをサポートしたり地域創生に関わったりと地銀が果たす役割の大きさを知り、自分のやりたいことはこれだと感じた。② 企業の比較・分析や想定問答をノートにまとめていた。日経新聞を読んだり時事用語を調べるなど経済を知る努力をした。③ コツコツ努力し笑顔で自分をアピールしてください。就職支援室の先生は心強い味方なので、ささいなことでも相談を。



山門 大志(現見)

【内定先】第三銀行

① 「産業社会実習」で銀行



思い志望した。② 不安を払拭するためにかく勉強をした。目的を含め自分がこれまでやってきたことにストーリー性を持たせ話せるようにした。③ 就職活動は大学で何を学んだのかを伝える場。

公務員編

名倉 雪帆(コミュ)

【内定先】四日市市役所



① 社会人になっても吹奏楽を続けたかったので、市民楽団の活動が盛んな四日市市に興味を持った。



中村 彩花(国文)

【内定先】中学校・国語愛知県

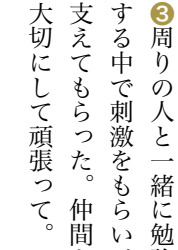
フレッシュするようにした。③ 「やりたいこと」ではなく、「やりたくないことはやらない」視点で仕事を選んだ。発想を変え適切な言葉で表現すれば何でもアピールポイントになる。皆さんが自分の心に正直に就活できますように。

山口 理喜(現見)

【内定先】皇宮警察本部



① 授業を通して日本の歴史や伝統、価値を学び、これらを守りたいと思った。



片岡 みずき(教育)

【内定先】幼稚園(三重県津市)



① 職場体験で幼稚園へ行つたとき、とても楽しかった。子どもたちの成長を支えていきたいと思つた。② 図書館やゼミなど誘惑がない場所で勉強した。就職支援室で面接対策をしていただいたおかげで本番で自分の考えをしっかりと伝えることができた。周りの人が次々内定をとる中で焦る気持ちもあったが、ゼミの先生や仲間励ましてもらい乗り越えることができた。③ ピアノをしつかり練習しておくと思ふ、自分が行きたいと思う道を突き進んでください。

② 何から始めればいいのか全く分かっていなかった私にとり、個人面談で具体的なスケジュールを含め就活のイロハを教え、親身にアドバイスをしてくださったことがありがたかった。③ 「就活」の二文字が常に頭にある日々は苦しかったが、趣味に没頭したり身体を動かしてリフレッシュするようにした。

藤井 美成(教育)

【内定先】小学校(三重県)



寺本 優太(国史)

【内定先】中学校・社会(三重県)



① 教えることが好きで、中学生のときから教員になるのが夢だった。② 勉強の仕方や対策が分からず不安だったが、周りの友人やゼミの先生に相談した。就職支援室で個人面接や集団討論を練習したことで、自信をもって本番に臨めた。最後は今

神社実習報告

失敗から学び、次に生かす

射楯兵主神社 神道学科2年 田中 千晴



平成30年12月27日から平成31年1月7日まで射楯兵主神社にて奉仕させていただきました。年が明けるまでは主にお正月に向けての準備を、元日からは社務所等で授与品授与のお手伝いをさせていただきました。

実習では失敗を恐れず、失敗から学んで次の成長に繋げること、相手を思いやる大切さを教わりました。また、職種や業務内容に関わらず、仕事をする上では「報告・連絡・相談」が重要なことを改めて実感できた点も収穫です。

神職の役割とは祭祀を通じて神様と人の「ナカトリモチ」となり、また地域コミュニティの場である神社を守り、維持していくことだと思います。今回の実習で学んだことを念頭に、日常生活でも周囲への心配りを忘れず、積極的に挑戦し、成長していきたいです。

日頃の学びが大切

松尾大社 神道学科2年 福田 雅俊



私の実家は社家であり、父や祖父が地域の方々と協力してお祭を成功させている姿を見て、自分もそうした仕事がしたいと思ひ神職を志しました。

実習を通して痛感したのは、神社は地域や氏子の方々の支えが無ければ成り立たないということ。そして授与品や神棚のお祀りの仕方など、神道に関する知識を日頃から学んでおく大切さです。また、授業で習った「称唯(いしょう)」を実際に見たことで、どのようなものか理解できました。

神職は神様と人の間に入る「ナカトリモチ」であると同時に、地方の神社では「管理者」としての役割も担うと考えています。神職をめざすにあたり、実習先の神職の方々のように常に周囲に気を配り、率先して動けるようにしていきたいです。

高
校

有志約280名が地域に恩返し

清掃ボランティア実施

地

地域の人たちへの恩返しをテーマに毎年末に実施している清掃ボランティアが昨年12月7日、通学路及び学校周辺で実施された。校友会役員が11月から朝礼で呼びかけたこともあり、多くの部活動や有志およそ280名が参加。ペットボトルや空き缶、瓶、たばこの吸殻など小さなゴミも丹念に拾い、約2時間の作業に汗を流した。



清掃活動は五十鈴川から学校までの通学路、伊勢球場・向陽台公園等倉田山周辺の二手に分かれて行われた

校友会総務副委員長の西岡海翔さん(2年7組)は活動中、通りがかった人から「ありがとう」と声を掛けられたと話し、「とても励みになった」と語った。また、草むらなど人目につかない場所にゴミがたくさん落ちていたといい「柵を立てるなど、ポイ捨てしにくい環境にすればいいのでは」とアイデアを語っていた。

選手と観戦者が一体に

武道・バドミントン大会開催

昨

年12月18日に実施された武道・バドミントン大会。男子は武道(剣道、柔道の選択科目)、女子はバドミントンに分かれ、それぞれ日頃の練習の成果を発揮した。以下に生徒の感想を紹介する。

日本剣道形の演武に見入る

総務委員長 大 東 海 晴(2年5組)

武道大会は剣道と柔道が行われました。剣道では2人1組で日本剣道形が披露されました。とても緊張した雰囲気、授業で練習した1～7本目までを一人ひとりが真剣な表情で演武に取り組んでいました。柔道は全学年トーナメント方式の個人戦で、短い試合時間の中、熱戦が繰り広げられました。準決勝や決勝になると選手の技のキレや力強さも増し、応援する人たちの盛り上がりも大きくなっていきました。今回のクラスマッチは全学年で行う最後の行事でしたが、どの選手も精いっぱい自分の力を発揮し、観戦していて自分も選手と一体になっていくような印象的な大会でした。



選手、応援ともに熱気に包まれた大会となった

また一つ、絆深める

総務副委員長 志 村 茜(2年9組)

今回のバドミントン大会はどのクラスのペアもチームワークがよく、その分試合も白熱したものになっていました。また、3年生にとっては最後のクラスマッチということもあり、一層気迫がみなぎっているように感じられました。プレーする側も、応援する側も一体となり、本当に良い雰囲気、進んでいきました。これは選手の頑張りだけでなく、多くの人の声援もあったのでこれだけ盛り上がったのだと思いました。この行事を通してまた一つクラスや友だちとの絆が深まったに違いありません。次のクラスマッチは1、2年生だけとなりますが、今回以上に熱気溢れる素晴らしいものにしていきます。



どのペアもチームワークの良さが光った

スタントマンによる交通安全教室実施

昨

年12月6日、JA共済と三重県警の協力を得て、カースタントを使った交通安全教室を実施した。スタントマンによる模擬交通事故を目の当たりにした生徒は一様に驚いた様子で、改めて交通ルールを守る大切さを感じたようだ。以下に生徒の感想を掲げる。



事故の恐怖を実感

2年A組 刀 根 琉 貴

プロのスタントマンがバイクや乗用車だけでなく、大型トラックまでグラウンドに運び込み、事故を再現してくれました。キキョー、バーンと音がするたびに、みんな息を呑みました。時々悲鳴も上がりました。途中、「本当に事故したの？」みたいな空気が流れ、「え!？」となりましたが、スタントマンさんの演技にだまされたと分かりホッとしました。これが現実だったらと思うと、本当に恐怖です。最後の挨拶で集まった時、スタントマンさんのつなぎが擦れて破れていたことに気が付きました。プロが綿密に打ち合わせても怪我をするということは、「万一自分が!」と考えるとぞっとします。誰も悲しい思いをしなくてすむように、みんなが安全第一に、交通ルールを守らなければならないと思った交通安全教室でした。

新・校友会本部役員紹介

昨年12月13日、校友会本部役員改選選挙の任命式が行われた。

総務委員長 志 村 昂(2A) ●今回の本部役員は全員が本部未経験者です。その中で総務委員長の大役は身の引き締まる思いです。他の役員を引っ張る意欲を持ち、お互いに支え合って校友会の仕事をこなしていきたいです。学校をより良くしていきたいです。

総務副委員長 井村 風海大(2A) ●全員新規役員なので手探りで進めなければならないことが多いと思いますが、発想を逆転してみると、今までにないことができるかもしれないということです。全力で頑張りますのでご期待ください。

総務副委員長 野 崎 優 希(2B) ●全校生徒が規則を守る学校にしていきたいです。そのために、まずは本部役員全員が規則を守り、皆さんにその大切さを伝えていきたいと思います。一年間よろしくお願いします。

書記 松 尾 裕 理(1B) ●皇學館中学校をより良い学校とするため、人のお手本となるよう「日進月歩」を忘れずに成長していきたいです。また校友会の活動を通して笑顔を増やしていき、学校全体を盛り上げていきたいです。

書記 深 津 弘 季(1A) ●本部の役員になるのは初めてなので不安なところもありますが、なったからには精いっぱい努力し、皆さんの想像する、理想の学校にしていけるよう努めていきます。よろしくお願いします。

会計 中 ひ なの(1A) ●会計をさせていただくからには、これから校友会の本部役員として、学校を引っ張っていきたくと思っています。みんなのために全力を尽くすので、よろしくお願いします。

会計 西 野 今 春(1B) ●私が当選したのは先輩や同級生たちのおかげだと思います。みなさんの期待に応えて、校友会の仕事を頑張り、誰もが楽しく学校生活を送れるように活動したいです。そのためには皆さんの力が必要なので、よろしくお願いします。



前列右端から時計回りに井村さん、志村さん、野崎さん、深津さん、西野さん、中さん、松尾さん

中
高
合
同

ピンクシャツデー運動でいじめのない社会へ

皇

學館高校・中学校で昨年11月13日から22日にかけてカナダ発のいじめ反対運動「ピンクシャツデー」が展開され、高中の全校生徒と教職員がピンクのリボンを身に着けいじめ反対の意思表示をした。



ピンクシャツデーは実話をもとに誕生した運動だ。2007年、男子中学生がピンクのポロシャツを着たことをきっかけにいじめられたことを知った友人が周囲にピンクのシャツを配り、着用を呼びかけた。すると、多くの生徒がピンクの服で登校し、いじめがなくなったという。現在、この運動はカナダのみならず、アメリカやイギリスなど多くの国と地域に拡大。「どんないじめも許されない」とのメッセージを発信するとともに、いじめの減少・防止、傍観者から行動する人へと変わる契機、あらゆるいじめ問題について考える機会となっている。リボンを作成した校友会役員は「いじめに対する意識を高めてもらい、いじめを生まない環境を作りたい」と話した。

「いじめに関心を持って」と話す校友会役員で3A室長の石井さん(右)と副室長の小久保さん

イベントカレンダー

各講座の詳細につきましては本学ホームページにてご確認ください。その他、お問い合わせは皇學館大学地域連携推進室(0596-22-8635)へお願い致します。

🕒時 📍所 (📘本学 📖他) 💰料金 🎫対象 📅予約 📞問合先

3月

27水

清水潔教授 退任記念講演会

講師●清水 潔(学長・文学部教授)

🕒16:30～ 📍231教室 🎫無料 🎫一般 📅不要

📞皇學館大学史學會 0596-22-6456

近鉄文化サロン阿倍野 共催講座

会場●近鉄文化サロン阿倍野

詳細は近鉄文化サロン阿倍野(06-6625-1771)へお問い合わせください。 **有料・要予約**

2/23(土) 15:30～

1日・短期講習会 三国とその後の皇帝即位

講師●堀内淳一(文学部准教授)

3/2(土) 15:30～

1日・短期講習会 日本人の他界観

講師●板東洋介(文学部准教授)

3/9(土) 15:30～

『古事記』を読み解くー雄略天皇後半～推古天皇の段「用明天皇～推古天皇」

講師●白山芳太郎(文学部教授)

3/16(土) 15:30～

1日・短期講習会 伊勢のしめ縄の系譜ー木簡とまじないー

講師●遠藤慶太(文学部教授)

3/23(土) 15:30～

神道と仏教ー神仏習合と神仏分離ー「伯耆大山における神仏習合と神仏分離」

講師●河野 訓(副学長・文学部教授)

卒業式、学位記・修了証書授与式の日程

皇學館中学校 卒業式

3/16(土)10:00～◆皇學館中学校セミナーホール

皇學館高等学校 卒業式

3/1(金)10:30～◆皇學館大学 記念講堂

皇學館大学 学位記・修了証書授与式

3/18(月)11:30～◆皇學館大学 記念講堂

【祝賀会】卒業生のご家族の皆様もご参加いただけます

14:00～15:30 ◆総合体育館メインアリーナ

平成30年度

皇學館大学

卒業記念ミュージカル

🎭課題

ショウとヒカリの大冒険

夢の世界を救いだせ

予約不要◆入場無料◆入場は先着順

毎年大好評の、皇學館大学教育学部4年生有志によるミュージカルショー！今年も、学生のオリジナルストーリー。主人公と一緒に大冒険に出かけよう！

津公演

3/3(日)

開場/13:00 開演/13:30

三重県総合文化センター 大ホール

伊勢公演

3/9(土)10(日)

開場/13:30 開演/14:00

皇學館大学 記念講堂

後援◆三重県教育委員会、伊勢市教育委員会、津市教育委員会

【お問合せ】

教育学科研究室 TEL.0596-22-6458

教育学部 卒業記念ミュージカルサイト

http://education.kogakkan-u.ac.jp/musical.html

QRコード

皇學館会館閉鎖のお知らせ

宿泊施設の皇學館会館を平成31年 3月31日付で閉鎖いたします。今後、伊勢市内に宿泊される方は、公式HP https://www.kogakkan-u.ac.jp/kanyukai/ky_service.php (TOP> 館友会 > 会員サービス)に掲載されている法人契約のホテルをご利用ください(割引等特典がございます)。ご不明な点がございましたら総務部総務担当 (TEL.0596-22-6308) までご連絡ください。なお、皇學館会館のゲストルームは、平成31年 3月10日までご利用できます。

【訂正とお詫び】 前号77号・8面・岡村真衣さんの所属学科に誤りがありました。ここに訂正し、お詫びいたします。 📍教育学科 ➡ 📍国文学科

お知らせ 新元号元年度より学園報を年4回発行の季刊紙とし、内容の充実を図ることになりました。公式ホームページでは最新情報をいち早く配信する一方、記録性・思考性に優れた本紙ではじっくり読み込み、深い理解や学びが得られる記事をお届けしてまいります。次号は5月下旬発刊の予定です。今後より良い紙面づくりに力を尽くしてまいりますので、引き続きご愛読をお願い申し上げます。 <企画部>

皇學館中学校・皇學館高校 卒業生随想

この春、皇學館中学校は38名、皇學館高校は380名が卒業を迎える予定だ。彼らの胸に去来する思いを語ってもらった。

皇學館中学校

仲間の存在

3年A組 里 中 愛 華



長いようで短い3年間でした。不安一杯で迎えた入学初日、人見知りの私の頭の中は、まずどうやって話しかけるかと、シミュレーションばかりしていました。しかしそんな不安は一瞬で消え、今は楽しい思い出がたくさん蘇ってきます。

校友会活動やたくさんの行事を通して「仲間の大切さ」を感じました。それは、仲間の支えのおかげで校友会とクラスの仕事を両立できたからです。行事の準備中にはクラス内で反発もありましたが、振り返れば、それが良い結果に繋がったと感じています。壁にぶつかっても乗り越えることができたのは、この38人だからこそだと思います。そんな日々も、もうすぐ終わりを迎えようとしています。この3年間で作った忘れられない思い出を糧に、高校でも自分の夢に向かって頑張っていきます。

仲間と共に次のステージへ

3年A組 河 村 隆 雅



3年間、楽しかったことや悔しかったこと、全てにおいて充実した時間でした。1年生から共に過ごした仲間たちと、行事であったり、遊びであったり、もちろん勉強も、さまざまなことで協力しあった日々は、本当に楽しかったです。最初は、まだまだ未熟な自分がいました。まわりに迷惑ばかりかけていたと思います。自分のことで精いっぱい自分を優しく導き、ときには厳しく叱ってくださった先生。そして、ドンマイと励ましてくれた仲間たち。みんなが、「中学生生活は、本当に、楽しい日々だった」と感じている自分へと導いてくれました。感謝しています。本当に、今までありがとう。

これからは、仲間に助けて貰った恩を一つひとつ返していきたいと思います。皇中で培った「日々を楽しむこと」「気配りを忘れないこと」を胸に刻み、仲間と共に次のステージへ歩んでいきます。

贈る言葉 次の3年間は主体的な学びを

中学校第3学年主任 吉 田 康 人

「修学旅行おつかれさまでした。この5日間だけで英語ができるわけでも、コミュニケーション能力が上がるわけでもありません。大切なのは今回の旅行で感じた課題を、これからの生活の中で意識し続けることです」

ある生徒が修学旅行の最後に挨拶した一部ですが、まるで教員がしゃべっているかのような内容でとても感動したことを覚えています。

3年前の春、重い鞆を肩にかけ、セミナーホールに集まり担任の呼名に大きな声で返事をしていた入学式。とにかく元気で活発、自分のことを誰にでも話しかけるような38人であったように思います。その活発さが時には友達同士のトラブルの原因になったりすることもありましたが、この3年間で体育大会や皇中祭など多くを経験し、学び、今では何事にも一致団結して取り組める力が身につきました。こうして振り返ると、皆さんの成長がよくわかります。

さて4月からは高校生です。変化の激しい国際社会の中で活躍する人になるために皆さんが次の3年間ですること。それは、『主体的に学ぶ』です。もちろん知識を深めるために授業での予習や復習をすることは大前提ですが、自分で目的を明確にし目的を果たすには何が必要かを考え行動する。そんな高校生になってください。簡単ではありませんが、これからの生活の中で意識し続けることです。皆さんが明るく、充実した高校生活が送れますように。卒業おめでとうございます。

皇學館高校

ピンチはチャレンジのとき

3年1組 黒 田 結 規(前総務委員長)



サッカー部に入部した1年生の冬に膝を怪我しました。生まれて初めて歩行ができなくなり、今まで当たり前できていたことがこんなに難しいことなのだ実感しました。医者から運動復帰は1年後と告げられ、その時運動以外で自分に何ができるのか真剣に考えました。まず学校のために努力したいと思い、校友会役員に立候補しました。また中学校の時から関わってきた二見浦をきれいにする「二見浦ビーチクリーン大作戦」をもっと広め、規模を大きくしたいと呼びかけたところ、多くの一般の方々の協力も得て活動することができました。身体の方は歩行リハビリに継続的に取り組んだのでクラブ活動にも復帰することができました。卒業にあたり在校生の皆さんに伝えたいことは、高校生活は楽しい時ばかりでなく辛い時もありますが、ピンチをチャレンジだと受け止め、自分にできることは何かをよく考え、挑戦するきっかけにしてほしいということです。その経験の中で必ず自分を成長させていくことができると信じています。

悔いのない高校生活を

3年2組 瀬 田 京 子(前総務副委員長)



平成28年4月、私たちは先生方、先輩方に温かく迎え入れられてこの皇學館高校に入学しました。それからの3年間は本当にあっという間に過ぎていき、気がつけば卒業の時期になっていました。私はこの学校でたくさんのことを学び、経験させていただきました。クラブ活動や校友会役員の活動など人と関わることが多い3年間でしたが、中でもインターハイが一番の思い出です。1年生の時から学校の代表として、2年後に開かれる三重インターハイのために各学校の仲間とPR活動をしたり、準備のために話し合いをしたりしました。自分たちで三重インターハイを盛り上げるために一生懸命努力を重ねてきました。そしてその責務を果たし、無事に終了することができました。このように高校時代の3年間、私が前向きに様々な活動に取り組めたのも先生方、友人たち、そして家族の支えがあったからです。この学校は仲間と協力し合うことができる素晴らしい学校です。在校生の皆さんもこの場で自分の力を発揮し、悔いのない高校生活を送ってほしいと思います。

贈る言葉

心に残る思い出ばかり

高校第3学年主任 久 保 雅 人

第54期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。この3年間、いろいろな思い出があります。なかでも、1年次の京都フィールドワーク、2年次の修学旅行、3年次の体育大会が印象深く思い出されます。

京都フィールドワークは総合的な学習の時間を使い、各班で計画を何度も練り直し、班員一人ひとりの協力により名所旧跡をまわり、日本文化について学習しました。翌日が土曜授業日だったことも今となっては、いい思い出です。九州への修学旅行は秋吉台から始まり、最後は太宰府天満宮に参拝というルートでした。特に太宰府での参拝は時間設定の都合で一時はどうなるかと心配しましたが、みなさんの迅速な行動で大成功でした。とても感謝しています。体育大会は2年次が雨天でできなかった分までがんばりました。「ええじゃないか」「U.S.A.」に合わせた応援合戦、一生心に残ります。

みなさんのこれからの人生のご多幸とご健康を心から祈念いたします。

アクティブ スチューデント
Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

辻井麻伽^(コミュ3)さんが心理学検定特1級、杉浦早紀^(コミュ3)さん、深川美月^(コミュ3)さんが1級に合格!

日本心理諸学会連合認定の心理学検定でコミュニケーション学科3年の辻井麻伽さんが特1級、杉浦早紀さん、深川美月さんが1級に合格した。

従弟が不登校になったことをきっかけに心理学に関心を持ったと話す辻井さんは、「心理学を学んだことで物事を多角的に捉えるようになった。また、学校に行くことが困難な子どもたちが集まる



左から深川さん、辻井さん、杉浦さん

施設や学童でボランティアをしているが、接し方に迷ったり悩んだとき、不登校の子たちの支援や児童期・青年期における発達の特徴を授業で学んだことが役に立った」と語った。「自分の心理学の知識がどの程度か知りたかった」と受験した動機を語るのは杉浦さんだ。「実験や調査で得られたデータを分析して、そこから何が読み取れ、どう生かせるのか考えるのが楽しい」と心理学の魅力について触れ、「ネガティブにとらえやすい性格だったが、対処法を学んでから長時間落ち込まなくなった」と話した。深川美月さんは「同じことを見聞きしても、人によって受け取り方が違うのが不思議」と心理学に興味を持った理由を語り、「目に見えない心を数値化して表現できるところに面白さがある。心理学を学んだことで他人や自分自身との付き合い方について、以前よりうまく balan

スをとれるようになった」と日常生活で嬉しい効果が出ているとした。

コミュニケーション学科では「認定心理士」の資格に加え、平成31年度4月からは心理職初为国家資格である「公認心理師」の取得に必要な学部プログラムが始まる。心の健康や対人関係を良好に保つ能力はあらゆる場面で活用でき、心理学的知見を備えた人材育成に期待がかかる。

心理学検定

試験は心理学の10科目(A領域5、B領域5)について行われ、10科目すべてに合格すると「特1級」が、A領域の4科目を含む合計6科目に合格すると「1級」が取得できる。第11回心理学検定(平成30年8月19日実施)は5026名が受験し、1級には1083名が合格。申請後合格が認定される特1級の累積取得者数は1170名(平成30年11月時点)。

東川若菜^(高校2年)さんがトビタテ!留学JAPAN奨学生としてカナダ留学



全校集会で留学の成果を報告する東川さん。東川さんが申し込んだ第四期は二〇九九人が応募し、五三五人(三重県は四人)が合格した

皇學館高校2年・東川若菜さんが官民協働留学支援制度「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム高校生コース」に合格。昨年8月4日～19日の16日間、カナダ・バンクーバーで充実の海外生活を送った。将来、看護師として地域医療を支えるために、留学を通して「医療英語」や「異文化コミュニケーション力」だけでなく、「勇気と自信」「挑戦的で積極的な生き方」を身に付けたかったと応募動機を語る東川さん。その言葉通り、現地では病院を見に行ったり医療問題について考察するアンケート調査を敢行。また、たこ焼き器を持参して日本食パーティを開いたり伊勢神宮を紹介したりと、日本文化のアンバサダー(広報大使)としての役割もしっかりこなしたようだ。「自身の語学力の低さにショックを受けたが、この機会を大切にしたいとの思いからいろんな人に話しかけ、挑戦する姿勢を養えたのがいちばんの成果」と東川さん。帰国後「もっと勉強しなければ」と意識を強く持つことができたといい、「今回得た学びをSNSや集まりの場などで発信していきたい」と抱負を語った。

トビタテ!留学JAPAN

文部科学省が中心となり推進する官民協働の留学促進キャンペーン。応募者が留学内容や渡航先、期間を自由に設計できる点や留学前後の研修等、手厚いフォローアップ体制が特徴だ。必須課題のアンバサダー活動(日本文化紹介活動)や「エヴァンジェリスト活動」(留学機運促進活動)を通して発信力も磨ける。

「第5回全国高等学校ビブリオバトル2018 in 大阪」で竹内怜我^(高校2年)さんが優秀賞を獲得

高校生がおすすめの本の魅力を語り、聴衆による投票で最も読みたくなった本(=チャンプ本)を決める知的書評合戦「第5回全国高等学校ビブリオバトル2018 in 大阪」が昨年11月4日、大阪市北区の関西大学梅田キャンパスで開催され、皇學館高校2年・竹内怜我さんが優秀賞に輝いた。



今回初めて大阪大会に出場できて嬉しいと語る竹内さん

2府7県の精鋭40名が2ブロックに分かれ競った同大会。『オペラ座の怪人』を取り上げた竹内さんは5分間の持ち時間を使い、「主人公・ファントムが抱いていた本当の切ない気持ち」を訴えた。行間を読み、登場人物の心情を丁寧にすくい取った解説は聴衆の胸を打ち、決勝へ進出。優勝こそ逃したものの、見事優秀賞を受賞した。

昨今、若者を中心に活字離れが進んでいるといわれている。竹内さんは「本を読むことで人の考えを先入観無しに読み取り、共有できる上、知識の幅も広がる」と読書の効能を力説。現在は高校の図書館で有志とビブリオバトルを不定期開催しているといい、「バトラー(発表者)としても腕を磨き、紹介した本だけでなく、作者のほかの作品にまで興味や関心が及ぶような工夫に満ちた発表をしたい」と目標を語った。



『オペラ座の怪人』(角川文庫 ガストン・ルルー著／長島良三訳)
19世紀末、パリ。華やかなオペラ座の舞台裏では奇怪な事件が続発していた。そして、闇に浮かび上がる人影……。『オペラ座の怪人』と噂されるこの男は何者なのか?

中西結菜^(高校2年)さんの「潮風フロランタン」が志摩の里海 旨いもんコンテストで最優秀賞!

志摩市の特産品「ひじき」「あかもく」を使ったアイデアレシピを競う「第10回志摩の里海旨いもんコンテスト」において皇學館高校家庭部・中西結菜さん(2年)考案の焼き菓子「潮風フロランタン」が80点の応募作品から見事、最優秀賞に選ばれた。



キャラクター菓子やほかのコンテストにもチャレンジしていきたいと話す中西さん

フロランタンはフランス菓子の一つで、サブレ生地の上にアーモンドなどのナッツ類が入ったキャラメルをかけ焼いたもの。中西さんはサブレ生地、キャラメル両方に「ひじき」と「あかもく」をふんだんに混ぜ込み、潮の香りと食感が楽しめる一品に仕上げた。「焼くと海藻が硬くなり口の中に残ってしまうため、納得のいく出来になるまで何度も試作した」と中西さん。受賞できたのは、たくさんの先生方や仲間の協力のおかげと、感謝の気持ちを語った。また、失敗を重ねることで諦めない心を養えたとも話し、「さまざまな組み合わせを試す中で新たな発想や好奇心も生まれ、最終決定した際は自信をつける



こともできた」と笑顔で語った。商品化が決定しており、菓子工房シマヤ(三重県志摩市志摩町)にて春頃販売される予定だ。



表彰式で笑顔を見せる中西さん(前列最右)。「作品が店頭に並ぶことを考えると夢のよう」と話す